

安倍氏詫警起訴

法廷外でも背景に迫れ

安部晋三内閣官房長官は昨年七月、統一教会（世界平和統一家庭連合）に対する恨みが犯行の背景であると認めた。被告が動機を肉便や精神的虐待と見ていて、教団と政治との不透明な関係については法廷外で証明すべし。

現職衆院議員だった西川経験者が、参院選の応援演説中に手製の銃で撃たれ、死亡するなどの衝撃的な事件だった。

奈良地検は現行犯逮捕された山

上級幹部を勾留、確定留置した

後、殺人と銃刀法違反（発砲・加害所持）の罪で起訴した。

事件は裁判権裁判の対象で、寺

志は被告の刑事責任能力の有無と

精神判断を左右する直機に絡られ

そうだ。検察は心神喪失なむら状

態ではなかったと判断している。

動機については、被告が母親の

入信で精神や物の人生を破綻さ

せた教団に対する恨みを擡げて、

教団アシスタント組えないだめ、教団

と深い関係のあった安倍晋三を撃つ

だといふのが主張だ。

ただ、それは仮説にすぎない。

裁判権は判断を拒み、法廷で被

告の口から語られる動機と真意を

聞き取つて進む。

事件後、世論は揺れた。理由は

これまで殺人が許されず、裁判で被

告の生い立ちなど少ないなかの凶

凶嫌論も生じた。

辯護用法は個人の報復権を否定

するが、いざ開かれておらなかのもの

同情論が漂つた。因縁は、反社会

的行為を犯して来た教団と親密

な関係を認める、事件発生まで距離

のなかつた政治、特に自民党への

強い情りがあったからだ。

裁判を受けて平田文雄内閣は

教団の解散命令請求に向けた宗教

法人法の質問権を行使し、不十分

な内容ながらも被害者救済法を成

立させた。宗教を非難にした免責

虐待行為のためだけに、血滴体向けの

対応措置も取られた。

しかし、二〇一五年の教団の名

称變更に当時の政局が関与し

たのか否か、國政選舉で教団票を

差配したと指摘される事実の役

割など、教団と自民党との親密な

関係の様な部分には疑ひふんでい

ない。その検討には今もなお、背

景を向いた検討だ。

統一教会の本拠地、教団と政治

との親密な関係が無縁とは言えない。

裁判でなぜ解説に問題がある、

法廷外で何が事件の背景

に通じるかが重要な点だ。